

知的障がいをともなう弱視生徒の 文字入力

オンスクリーンキーボードを利用して

Jalpsjp

発表の流れ

- ① 本校重複障がい児童・生徒のICT教育
- ② オンスクリーンキーボードの利用
- ③ 支援技術を利用するには

①本校重複障がい児童・生徒のICT教育

小学部

- 早期情報教育

3年生から6年生まで、総合の時間に実施

今年度は各学年、2か月に1回

専攻科情報処理科の全盲の生徒が補助

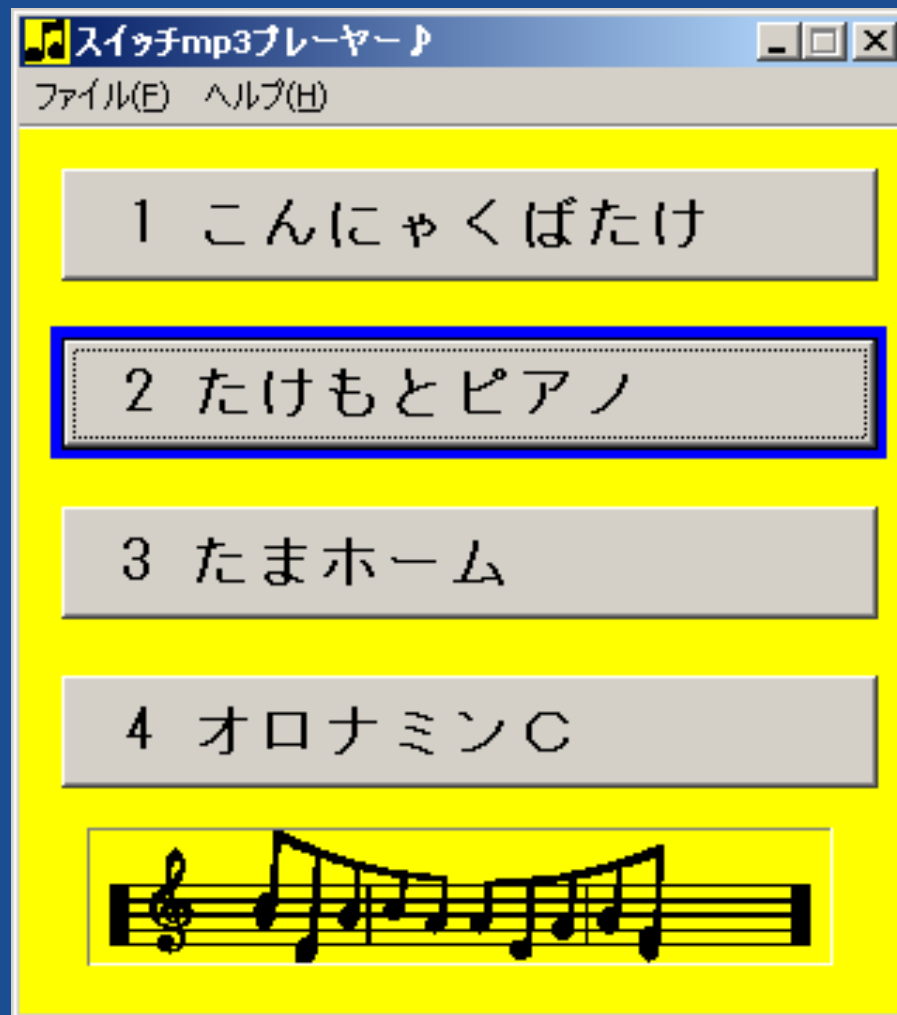
- 目的

情報機器に慣れ親しむこと

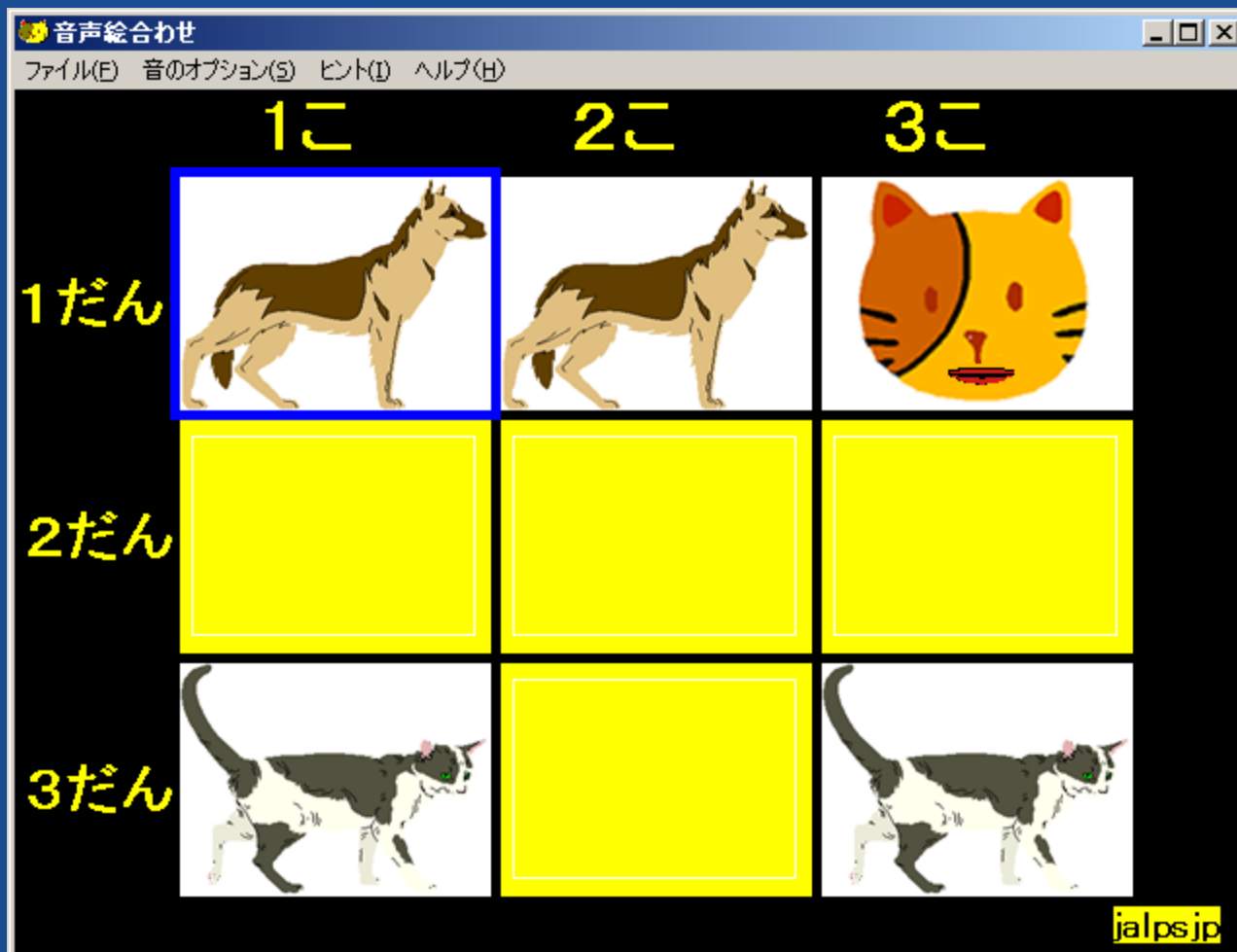
授業内容

- 好きな音楽や童話を自分で選択して聞く
- クイズやゲームを楽しむ
- DAISY録音図書を選択して聞く

ソフト・スイッチmp3プレイヤー



ソフト・音声絵合わせ



ソフト・アミの本棚

AMIS "小学部だより七月号" Default view mode - Self-voicing - Playing - [ncc.html]

ファイル(E) 表示(V) 再生(P) ナビゲーション(N) ブックマーク(B) 情報(I) ヘルプ(H)

ナビゲーション

- 小学部だより七月号
- はじまり
- 楽しかった宿泊学習
 - 1日目
 - 2日目
- 防犯訓練がありました
- スポーツフェスティバルを終えて
- 行事予定
- おしまい

セクション

停止

スポーツフェス
お
ティバルを終え

アミの本棚

ファイル(E) 設定(C) ヘルプ(H)

だいこんの白いわけ

まんじゅうこわい

よだかの星

小学部便り7月号

ジャパニーズ

ジャパニーズ

入力機器・スイッチと改造ゲームパッド



入力機器・改造テンキー



中学部

- 対象 最重度のグループ
文字の読み書きはできない
言葉のない生徒もいます
- 目標
因果関係の理解
自分の好きな効果音や音楽を楽しむ
- 使用機器
VOCA (Voice Output Communication Aid)
パソコンとスイッチ

VOCA・ステップバイステップ



VOCA・ビッグマック



改造マウス



VOCAの利用例

- 好きな音楽を録音し、楽しむ
- 劇のせりふを録音し、自分の出番で、教師と一緒に押す
- 朝の会の司会の言葉を録音し、会の進行をする

パソコンとスイッチの利用

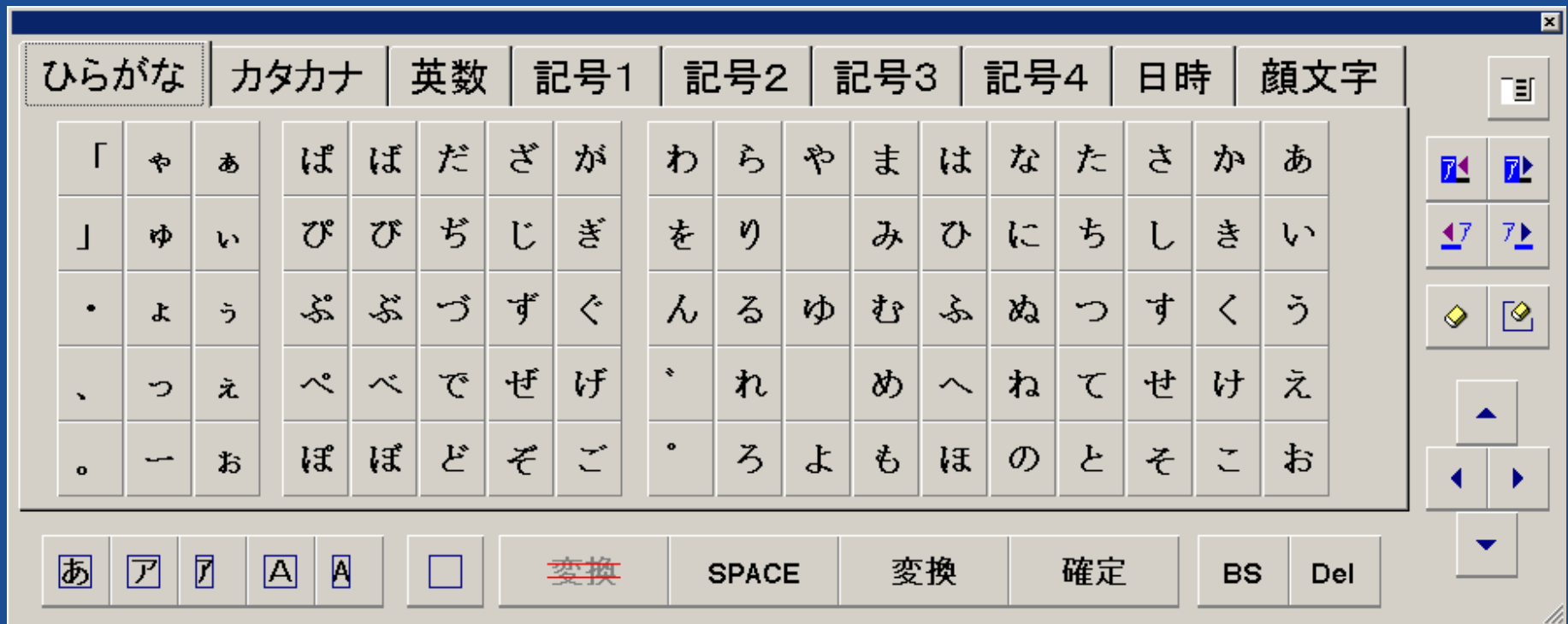
- スイッチをパソコンにつないで、簡単なソフトを操作する

②オンスクリーンキーボードの利用

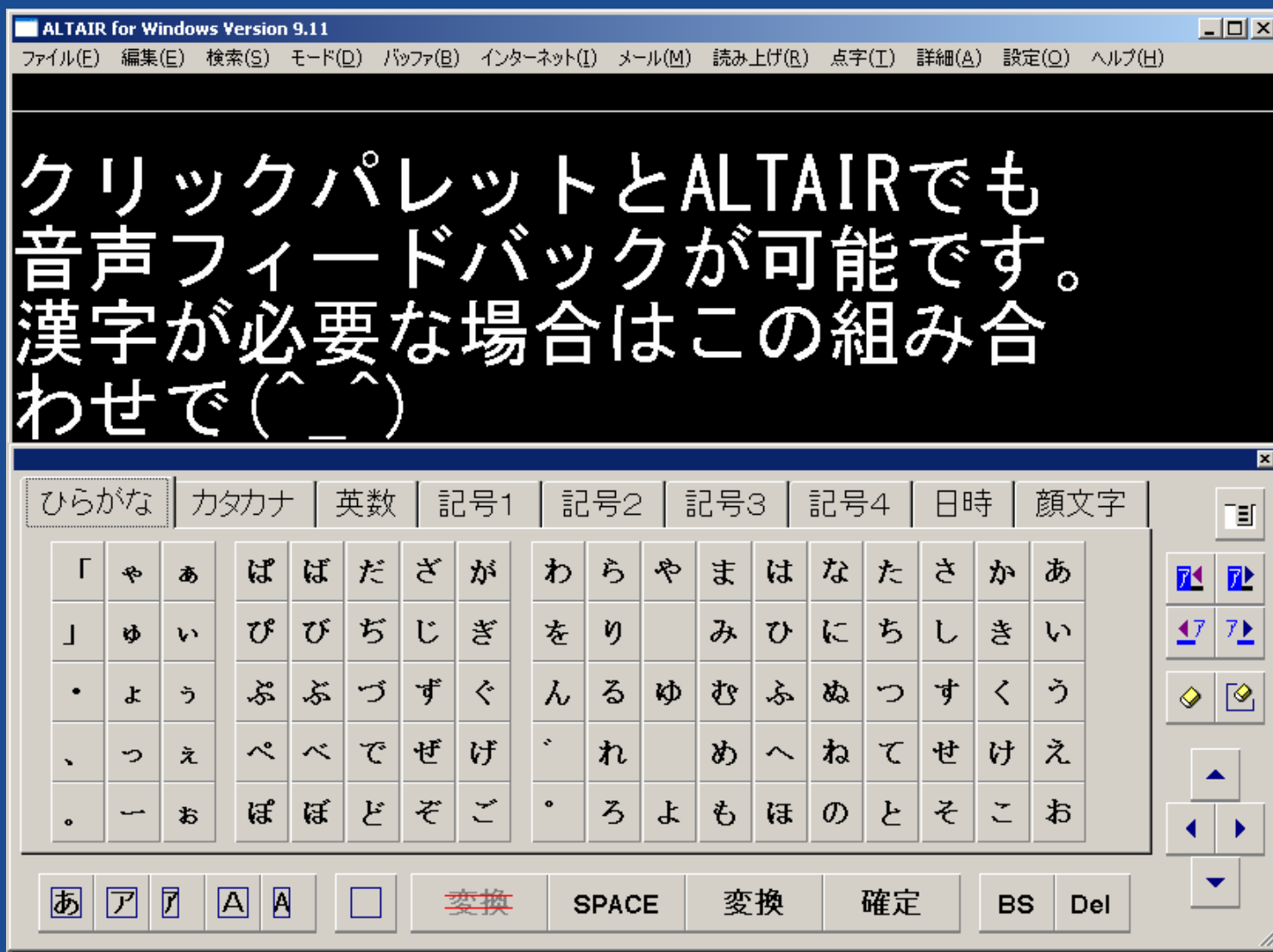
- オンスクリーンキーボードとは
ディスプレイにキーボードのような画像を表示し、マウスでクリックして文字入力やパソコンの操作ができるソフトウェアです
- 例
Windows OS付属のスクリーンキーボード
iPadの文字入力
など、多数あります。

クリックパレット

- ワープロソフト 一太郎の日本語変換ソフトATOKに付属



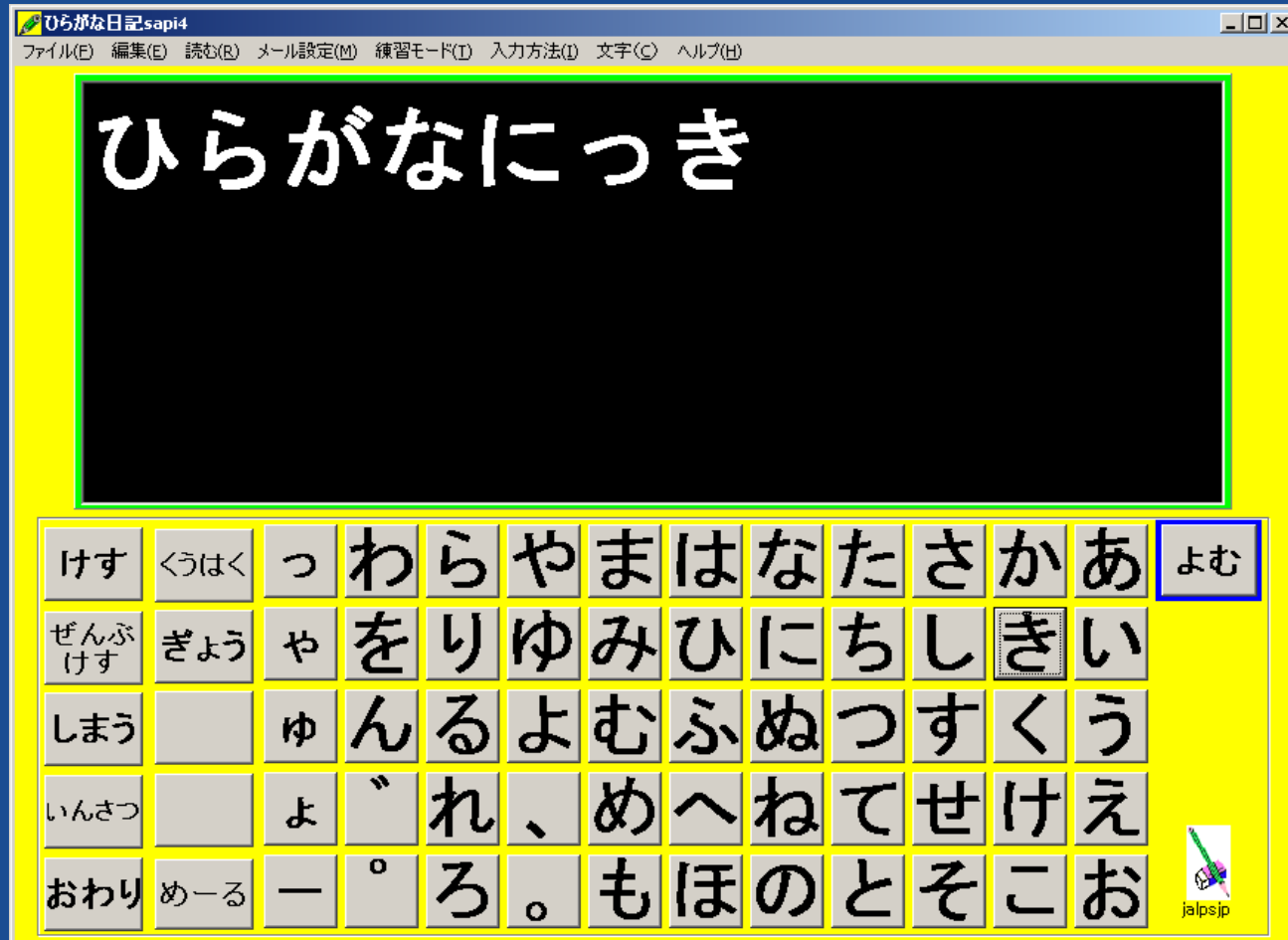
クリックパレットとALTAIR



梶原ソフト・しゃべるキー



ひらがな日記 Ver2



対象の生徒

1. A君(社会 個別指導)

近距離視力 0.2 弱視

2. B君(自立 個別指導) 参考

遠距離視力 0.5

1. A君

- ひらがなは大部分読むことができます
- 書かれた字を見ながら、半分ほどのひらがなを書くことができます
- 一部ではありますが、漢字が書けます

2. B君

- ひらがなは、拗音は読めないが他はなんとか読めます
- 文字を書くことはできません

指導の効果

1. A君

- ゆっくりではあるが、ほぼひらがなが入力できた
- 音声フィードバックによって、入力文字の誤りに気づいた
- 長い文章が書けるようになった
- 飽きずに集中して取り組むことができた

2. B君

- 清音を自分で入力できるようになってきた
- 紙に書かれた文字を、入力することができた

まとめ

- オンスクリーンキーボードを使うと、ひらがながほぼ読める生徒の場合、文字を入力でき、また入力の間違いに気づいた
- タッチパネルは直観的で使いやすく、すぐにオンスクリーンキーボードで文字を入力することができた

③支援技術を利用するには

1. 児童・生徒が使えるソフトウェア
2. 適切な入力機器や情報機器
一般の教室などでも利用可能に
3. 支援機器を使うことに対する保護者や教員の理解

教員の意見

- 手で書かないと覚ええない
- コンピュータを使ったら、せっかく覚えた文字まで忘れてしまう
- このソフト、漢字が書けないし、実用的でない

私も、書くことに障がいのない生徒には、上記の意見は当てはまっていると思います

私の考え

努力して、ある程度まで書けるようになって
も、十分に書けるようにはならなかった生徒
たちに、手で書くということだけ続けさせる
より、支援機器を使ってでも考えたことをより
多く文字で表現し、さらに表現したものを人に
伝えさせることが、大切ではないでしょうか